＜付録＞大学キャンパスに関するアンケート調査

本分科会では、平成 25 年 11 月、建設系の教育を行っている大学を中心に約 100 の国公私立大学に、キャンパス整備に関するアンケート調査を行った。アンケートの方法は電子メールおよびＦＡＸであり、建設系教育を行っている学科の学科主任宛に送付し、国公立大学 21 校、私立大学 30 校より回答を得た。

キャンパスデザインについて国際的あるいは国内的な競争力があるかとの質問に対して、一部の国立大学を除き、多くの大学が国際的、国内的に競争力がないと回答しており、大学関係者の危機感が浮き彫りになった。キャンパスデザインについて国際的な競争力があると回答したのは、戦前からの歴史を有する一部の国立総合大学であり、敷地、建物の規模に余裕がある大学であった。キャンパスに対する自己評価は大学により、かなり開きがあり、全く競争力がないとの回答も多く得られた。

競争力の原因について、競争力が高いと回答した大学は、①アカデミックプランに沿ってキャンパスマスタープランを作成した上で、時代の要請に応じた対応をしていること、②大学創立以来の歴史を継承していること、③十分な緑地を有し、多様な生態系を育んでいること、④サステイナブルキャンパスの実現に向けて全学的に取り組んでいること、⑤長期的に環境を維持するためのマネジメント体制を構築していること、⑥地域に大学が開放されていることなどを掲げていた。一方、競争力がないと回答した大学は、その原因として、①耐震性など性能が劣る老朽・狭隘化した施設、②学生の多様な活動のための空間不足、③緑地などの外部空間の量的不足、魅力のなさ、④キャンパス全体としての計画の欠如や、一貫性ある長期的な取組みの欠如などを指摘していた。

より良いキャンパスの実現のためには、①全学の合意によりアカデミックプランに対応したキャンパスマスタープランを策定し実行すること、またマスタープランを事後評価し見直しを行うこと。②短期から中長期にわたる施設・環境整備の戦略策定とそれを実現するための組織、合意形成プロセス、財源を持つこと、③キャンパスのユーザーの立場に立ちパブリックスペース等を整備し、維持管理すること、④リーダーシップの確立と必要に応じて外部の専門家を活用し質の高い施設整備を行うことなどが必要とされた。

①貴校のキャンパスデザインは世界的に競争力があると思いますか。

（該当する位置の番号に〇印をつけてください）

競争力がある　　１　２　３　４　５　　競争力がない

②貴校のキャンパスデザインは国内では競争力があると思いますか。

（該当する位置の番号に〇印をつけてください）

競争力がある　　１　２　３　４　５　　競争力がない

○:国公立 ●:私立	1 世界的に競争力がある	2	3	4	5 世界的に競争力がない	国内 集計数
1 国内で競争力がある	○ ●	○ ○ ○				4、1
2		○ ○ ○ ●	○ ● ● ● ● ●	●		4、7
3			○ ● ● ●	○ ○ ● ●	● ●	3、7
4			○	○ ○ ○ ○ ○ ● ● ● ● ● ●	○ ○ ● ● ● ●	8、10
5 国内で競争力がない				●	○ ●	1、2
世界的集計数	1、1	6、1	3、8	7、10	3、7	19、27

未回答　私立大学　２校

③その競争力はどのようなことが原因とお考えですか
④より良いキャンパスにするためにはどうすべきとお考えですか

	貴校のキャンパスデザインは国内外において競争力があるか		そのような競争力はどのようなことが原因と考えるか	より良いキャンパスにするためにはどうすべきとお考えか
	世界	国内		
国立大学	1	1	大学改革に基づくアカデミックプランに沿って、その受け皿としてのキャンパスづくりに取り組んでいます。具体的には、戦略的施設用地の確保、学術・研究院制度を反映する施設づくり、環境に配慮した研究者参加型の土地造成とキャンパス計画(土木学会環境賞)、生物多様性保全ゾーン等の確保と環境共生教育等です。	(1)専門家によって、与条件をクリアし、ユーザーの意見に対応しつつ、先を見越して間違いに準備された計画 (2)リーダーシップ、ユーザーの支援にもとづく実施・維持管理・運営体制 (3)適正な資金力　ほか これらが有機的に繋がり、実現に結びつくこと。 (3)に関して、施設準備のことだけではなく、美しいキャンパスとするためには、「キャンパス・パブリックスペース」の計画および実施への資金供給に対する学内、文部科学省、財務省等の理解が得られないと、よいキャンパスができません。
	2	1	1)全国の国立大学(当時)の中で、初めてキャンパスマスタープランを策定し、その方針を引き継ぎつつ、時代の要請に対応したキャンパスマスタープラン2006で、現在の施設・環境の整備方針が定められていること。以下の項目は、マスタープランに示された項目であり、特にキャンパス空間に特徴を持たせるための項目として特筆される。 2)大学創設時以来の緑地空間(中央ローン、エルムの森、原始の森)などが保全され、周辺の研究・教育施設との調和が図られていること。 3)キャンパスは広く地域に開かれており、市民や来訪者、観光客の休息、憩いの場にもなっている。 4)創設期からの歴史的建造物が保全され、かつユニバーシティ・ミュージアム、研究棟、などとして活用され、模範農場の施設であるモデルバーンは、重要文化財に指定されている。 5)キャンパス内の小河川を地元行政(札幌市)と協働で再生整備し、多様な生態系を育む生態回廊をつくり出している。 6)サステイナブルキャンパスを実現するための、アクションプランの策定と施設の計画や維持管理だけでなく、全学的な大学の諸活動も含めたかたちで大学のサステイナビリティを評価するサステイナブルキャンパス評価システムを策定し、運用していること。	・キャンパスの環境や施設整備の方針となるキャンパスマスタープランを全学の合意の中で策定し、そのタイムラインに合わせて実行を行っていること。 ・アカデミックプランの戦略に呼応した、短期から中長期にわたる施設・環境整備の戦略を持つこと。 ・施設整備、環境側過のための財源を多様に確保する戦略をつくること。 ・キャンパス・ユーザーの意向や視点を織り込んだ、パブリックスペースを整備すること。
	2	1	・国内で最先端のキャンパスマスタープランをもつこと ・世界的建築家による施設の設計 ・ファシリティマネジメントの導入により長期的に環境を維持するための体制をもつこと ・サスティナブルで低炭素化を目指したキャンパスづくりを進めていること	・よい施設をつくり、長期にわたり良好な環境状態で使いつづけるための、組織や資金的な体制を整えること
	3	2	・教育、研究を目的とする施設整備については、国庫補助される。 ・上記以外の福利厚生施設、外構などのアメニティに関わる予算的裏付けはなされていない。 ・予算的裏付けのない、国庫補助以外の部分における自主努力が、かろうじて最低限の競争力確保に結びついている。	・優秀な研究者を確保するため、多様な研究の受容、教育研究を行う環境としての総合的な質、これらの整備、維持が大学経営の基盤と言え、経営理念の根幹となっている必要がある。 ・施設整備だけではなく、通勤通学の安全な移動から災害時連携を踏まえた都市インフラとの接続に至るまで、キャンパスをとりまく周辺との相互連携を経営戦略として持つ必要がある。 ・予算的な裏付けを持った中長期ビジョンとファシリティマネジメントに基づいた経営リソースの投入が必要である。
	3	2	(本学には、全学施設マネジメント委員会(以下、FM委)＋キャンパスデザイン室(以下、CD室)が存在し、CD室では、キャンパスマスタープラン(以下、CMP)及び関連箇所の策定、改訂、運用、ならびに、主に外部空間の基本設計と整備、建物の実施設計時のアドバイス等を行っています。) ・本学のFM委＋CD室は実質的には、建物計画の概算要求の内容には殆ど関与できていません。 ・建物の新営計画(国への概算要求)を立てる際、キャンパス全体骨格との整合ほか周辺との関係性、駐車場や福利厚生施設とのバランス、オープンスペースや人の流れとの関係性、等があまり考慮されておらず、実質的に予算要求の主体となる部局の都合だけで立案されています。もちろんCMPにおいて「こう考えるべき」とは示しており、実施設計後半で反映するプロセスはありますが、タイミングが遅すぎることと、概算要求立案時は形式的参照に止まってしまうことが問題であると考えます。 ・国公立大学では、維持管理(特に外部空間、緑地)に十分な予算がかけられていません。 参考:本学の1年生が共通(教養)教育を受けるキャンパスは、近隣の某私立大学の同等規模キャンパスに比べて、緑地の維持管理にかけている金額は、約1/3でした。 ・建物に予算はついても、屋外空間の整備に予算がつけられることは、総長裁量経費等の特殊例を除いて、まず存在しません。	・1)建築系教員、または2)単一の優秀な設計事務所が、企画(予算要求資料段階)から現場整理まで一貫して新営・改修計画にかかわること。 ※ただしどちらもハードルは高いです。 1)は、マンパワー(教員側も、施設部側も、その他事務組織も)上、あまり現実的ではありません。 2)は、設計と管理を分離させる制度となってしまっていること、さらに概算要求時に設計事務所を入れて建築計画を考えることが出来ない(予算＋時間の壁)ことが大問題であると考えます。 ・キャンパスデザイン室が、企画立案(概算要求その他、資金調達のためのソフトウェア的企画)から関わることができる体制をつくるべきと考えます。 ・その上で、学生教職員はもちろん、周辺地域との連携・意識共有によるマスタープランやキャンパス計画、個々の整備計画の検討・策定などのプロセスが重要になってくると考えています。
	—	—	—	・　整備財源の安定的な確保 ・　キャンパス計画に関する全学的な組織の確立 ・　キャンパスデザインコードを含むキャンパスマスタープランの制定と定期的な見直し ・　施設の整備ごとにキャンパスマスタープランとの整合を事前に確認し、事業(施設及び屋外環境)を実施 ・　良好なキャンパス空間を維持するために適切な維持管理の実施 ・　事業を整備した後の事後評価の実施と事後評価を踏まえたキャンパスマスタープランの見直し

	貴校のキャンパスデザインは国内外において競争力があるか		そのような競争力はどのようなことが原因と考えるか	より良いキャンパスにするためにはどうすべきとお考えか
	世界	国内		
国立大学	2	1	・絶対面積(学生あたりキャンパス面積)が広い ・鉄道駅に近い ・緑が豊富 ・屋外のオープンスペースにおける学生利用が多い。 ・適度な市民利用がある ・建築系では学生の施設利用の自由度が高いこと	・建築の質を向上させる ・利用効率を上げるための全体調整を行う(学科・学部の境界の融通性を確保する) ・より一層の利用のオープン化を目指す ・プレゼンテーションの場をより多く設ける
	3	3	そもそもキャンパスデザインを「競争力」という物差しで捉えようとすることに違和感があります。	・ 変化と不変とを共に包含する空間デザインであること。 ・ 歴史の蓄積があること。 ・ 街との豊かな関係性が築かれてあること。 ・ 緑豊かなこと。 ・ 様々な物事を許容する空間に満ちていること。 ・ 継続してキャンパス計画を担う組織および人材があること。
	3	4	コンセプトが明確でない	専門的な教員が関わること。 その仕組みが必要
	4	3	貧弱なキャンパスデザイン(特に造園計画) 建築・設備等の老朽化・整備が不十分 学生用福利厚生施設が貧弱	・建築系の教員を主体としたキャンパス整備室の創設活性化 ・キャンパスデザインのマスタープランの作成 ・恒常的なキャンパス整備予算の確保
	4	4	キャンパス全体のデザインコンセプトがないことや、歴史的資産(国指定重要文化財の建造物4件等)を活かした環境整備がなされていないこと。	機能性や居住性等に関する実用的なキャンパスマスタープランだけでなく、空間や環境についての優れたデザインコンセプトを持ち、両者をふまえたキャンパスづくりを行っていくべき。
	4	4	流動性が低い	部局毎の管理・運営体制の全学一文化
	5	4	これまで国の設置基準では平等と公平が重視されていたため、大学のキャンパス整備に関して競争という概念がなかったのではないか。国立大学の施設は国の財産であるという立場から大学ごとの固有性は配慮されず施設部が標準化された仕様でキャンパス計画を行っていたと思われる。それは、大学進学者が漸増する、人口が増加しさらに進学率が上がる中で、大学は競争する必要はそれほど多くなかったことも一因である。そのため国内の大学のキャンパスは魅力が無く均質化されていたと考える。以上の要件によって我が国の大学キャンパスは国際的にみても魅力のない競争力のないものになったと考える。 ただし、旧帝国大学(特に東大)、戦後の新制大学、私学というジャンル分けした大学管理が行われていたため、(旧帝大は独自のキャンパスの裁量権が与えられていた)自ずと各大学キャンパスは差別化されていたようである。	大学の教育研究に対する哲学思想に対応したキャンパス計画に対する戦略的なグランドデザインが必要である。キャンパス空間デザインに関する専門家として建築家教員が参画し、継続的な教育研究の空間をコントロールできる制度が必要である。 私学では大学進学者の頭打ちが明らかになった時点(20世紀末21世紀初頭)魅力あるキャンパスづくりに投資を始めている。2004年の国立大学の独立法人化によって新制大学もキャンパス整備に裁量権が与えられるようになり、東工大、横浜国大などでは内部の建築家教員が活動できる立場と権限が与えられ(キャンパスデザイン計画室の設置)、キャンパス整備に参入し始めている。 今後はキャンパスデザインにかかわる専任の専門職教員職員を採用する必要があると考える。
公立大学	2	2	・分かり易いサイン計画 ・バリアフリー ・武蔵野の雑木林を残した、自然豊かな立地 ・美しい建物群	・学生の各種活動のためのスペース(屋外)や建物を用意すること ・世界各地から集まる学生がとまどうことなく大学生活を過ごせるような配慮を施すこと
	2	2	キャンパスは、日本芸術員賞を受賞したA氏が設計しており、隅々にまで気を配った意匠が、高品質の建築空間を生んでいる。建築の質で言えば、日本を代表する建築デザインであり、世界的な競争力がある。	作家性の高い、強い意匠の建物と、更新されるあるいは新規に建設される周辺建物が調和をとるようなデザインをいかに実現するかが重要である。 また、地球環境保全の観点だけでなく、経営面からも、できるだけ化石エネルギーに頼らない省エネルギー性が重要であり、日射コントロールやパッシブ性を重視した負荷をかけないデザインも今後は必然である。
	4	3	・キャンパス環境・施設の美しさ，機能，それらが維持されている点で競争力がある． ・キャンパスデザインという行為については，開学(1997年)以降はほとんど行っておらず， 競争力に乏しい．	・長期的な視点にたったキャンパスの整備・維持計画をつくること ・教育研究機関としての機能性や快適性を確保すること ・キャンパスの適切な維持管理・美化を継続的に行うこと ・周辺環境との調和を図ること
	4	4	本学は、農学系と工学系からなるが、キャンパスがA市とB市に分かれている。 せっかくの2学部が独立してしまっているのは集積とインタラクションの観点から好ましくない。しかし、それぞれ、単体のキャンパスとしては、有機的な動線計画など見るべき点はある。	電子情報手段を駆使し、高速な交通網の整備を行う事があるだろう。
	4	4	バランスと調和が保たれていない。	学府にふさわしい品格と統一性
	4	4	—	—
	5	4	—	本学のキャンパスデザインはお世辞にも良いとはいえません。学内に関係部署が設置され、少しでも居心地の良いキャンパスに改善されることを期待します。 しかしながら、今年度より「公立大学」から「公立大学法人」になり、予算の制約が大変厳しくなっていますので、キャンパス整備につきましては今後も期待できない状況です。このような状況下で可能なことはやはり、教室、廊下、階段、駐車場などを清潔に保ち、屋外の草花・樹木を丁寧に育てるなど、今あるものを大切にして磨き上げることと思います。
	5	5	・基本的に耐震改修されておらず危険である． ・狭隘化もひどく教育・研究に支障がある． ・学生のための自主的な学習やディスカッションするスペースがない． ・棟に囲まれた中庭や豊かな屋外空間などとは無縁である． ・創造性に欠け，分かり易さにも欠ける．	・根本的なグランドデザインの見直しが必要． ・計画を大学主導にし，予算をつけること．

③その競争力はどのようなことが原因とお考えですか
④より良いキャンパスにするためにはどうすべきとお考えですか

私立大学	貴校のキャンパスデザインは国内外において競争力があるか		その競争力はどのようなことが原因と考えるか	良いキャンパスにするためにはどうすべきと考えるか
	世界	国内		
	1	1	・組織：外部の高度な専門家の参画 ・主旨：歴史の蓄積、周辺地域も視野に入れた空間のあり方等についてデザイン部分の方向付け 以上2点は本質的な事であり、かつ、ユニークであるため。 　また、本学（Aキャンパス）はB市風致地区内にあり、年月を経た大木等、自然環境にも恵まれており、さらに、学内を一般道が縦断していて市民にも開放されており、地形を生かした故村野藤吾によるキャンパスデザインが環境の骨格としてあることも大きい。	大学の理念を実現しつつ、様々な人が参画できる実行施策に基づいた整備計画が必要と考える。
	2.5	2.5	大学理工学部建築学科が中心となって、インハウスでの建設委員会を作っている。 学部ごとに分かれたキャンパスとなっているが、理工学部の施設整備についてはこの「キャンパス整備委員会」と具体的な施設づくりについては「建設委員会」において、大学側からの学びの空間を企画まとめて	設計入札だけで、設計会社を選出するだけでなく、大学内部で「マスターアーキテクト」を決定し、大学独自のコンセプトに乗っ取った企画プログラムを作り、そして設計までのプロセスを確認して行く事であろう。
	3	2	○独特の配置理念をもち建築作品として評価が高いものが複数ある。 △施設（建築・外部空間とも）が古く、よりよいメンテナンスが望まれるものが多い。	一言で答えるのは困難
	3	2	個別の施設については、老朽化施設を順次建て替えるなど、大学を挙げて、魅力的な施設整備に努めており、競争力は高いと考えられる。 ただし、実験・演習施設については、必ずしも十分であるとは言えず、特に理系学科において、施設の魅力向上のための継続的な努力が必要であると考えられる。	キャンパス全体としての魅力を向上させる、よりきめ細かなマスタープランの策定が重要であると考える。
	3	2	マスタープランが整備され、大学キャンパス全体の調和がとれていると考える。 ただし、魅力的な建物と思われる免震構造の建物や健康管理施設のある建物などはキャンパスの入口から遠く、見通せないのが残念である。 また、築年数の大きい建物が多く、これらは決して魅力的ではないので、国際的な競争力は乏しいと判断した。	ねがわくば築年数の大きい建物を改善して魅力的な建物にしてほしい。室内はもとより窓サッシや外装など安っぽいのが問題である。空調設備も後付で美しくはない。
	3	2	若手建築家集団スタジオ・ヴェロシティ設計の言語・情報共育センターは中庭に存在し、国内外の雑誌で評価を得ていること。	学生たちが楽しそうに生き生きとキャンパスライフがエンジョイできていること。その演出を建築空間ができていること。
	3	3	新しく出来た葛飾キャンパスは都市公園の中にあり、頻繁に地域住民の方々も訪れる地域に開放されたキャンパスであることは、（競争力かどうかはわかりませんが）、特徴的ではないかと思います。	キャンパス計画は、理事会と管財課で対応しており、建築学科出身の方がおられますが、とくに専門家を置くという体制ではございません。以下の設問にあるキャンパス整備室のような組織を、大学内に整備していくことが必要だと考えます。
	3	3	各棟のデザインについては特徴的で先進的であると考えるが、キャンパスのリニューアル計画の実行時期が遅かったと考える. キャンパス内の約半数の建物が老朽化しており、教育・研究施設環境が十分とは言えないが、大学内に施設委員会が出来て、2008年にキャンパスの建替えのマスタープランを作成し、現在それに添って進めている。既に、図書館・体育館・建築学科棟・生体医工学科棟・事務棟は新築され、現在、事務棟(1号館)の増築工事が進んでいる。他大学に比べ、やや遅れている印象があるが、建築学科棟は建築学会賞を受賞し、図書館・体育館も先進的なデザインと機能を有す	長期的な財務計画（意思決定機関による承認）に裏付けられた、計画的な大型リニューアルの実施。
	3	3	キャンパス内の建物外壁には、レンガ調タイルを使用するというデザインコードがあり、景観上まとまりつつあるが、一部の古い校舎では、それが守られていない。通路に並木を植樹することで、緑地面積の不足を補ってきたが、キャンパス拡張地には継承されなかっ	今後の新築、増改築においてデザインコードを順守する。また、将来に向けてのマスタープランを策定して、校舎の配置を整備すると共に緑地やオープンスペースを確保する。
	4	2	女子大学としての魅力を考えなくてはならないことか	学生の嗜好やニーズに敏感になるべきだと考え
	4	3	本学のキャンパスデザインは、施設部（建築学科出身が1名）が見積入札で選定した設計事務所に委託し設計を行っている。従来は、設計事務所が主体性的に取り組んだと思われるデザインであったが、近年は施設部の好みが強く出るようになった。その結果、必ずしも競争力のあるデザインではなくなってきたと考えられる。 また、施設部には建築学科の教員の意見も取り入れる姿勢が強くは見られない。具体的には、建築学科の教員は学内のキャンパスデザインの委員会には専門委員として入るが、ほとんど設計が完成した計画案に対して、参考意見を言う程度に留まっている。	建築学科の教員がキャンパスデザイン計画に十分意見を述べ、取り入れられる形とする。また、設計事務所の能力が十分に発揮できる形とする。 具体的には、複数の設計事務所によるプロポーザル方式とし、その要綱作成や審査委員に建築学科の教員が入る形が望ましい。
	4	4	キャンパス面積の狭さが最大の原因	緑を多くし、周辺住民も憩えるような キャンパスにする
	4	4	キャンパスのグランドデザインあるいはマスタープランが無い。	キャンパスデザイン整備の体制づくり バリアフリー、ユニバーサルデザインの推進 学生にとっての居心地の良い居場所の創出

私立大学	貴校のキャンパスデザインは国内外において競争力があるか		その競争力はどのようなことが原因と考えるか	良いキャンパスにするためにはどうすべきと考えるか
	世界	国内		
	4	4	(新都心キャンパスについて)都心立地であること自体が魅力でありオフィス街の景観に配慮したデザインであるが、大学キャンパスとしては空間的制約も多く、柔軟な教育内容に対応できない部分も多くある	建学の精神に沿った将来構想に基づく中長期キャンパス計画を構築すること 将来変化にフレキシブルに対応できる空間デザインであること
	4	4	キャンパスデザインに関して競争力があるとは思えない. キャンパス内の約半数の建物が老朽化しており、教育・研究施設環境が十分とは言えない。大学内に施設委員会が出来て、2008年にキャンパスの建替えのマスタープランを作成し現在それに添って進めているが、それまでは中長期計画に基づくオーソライズされた計画がなかったため、改修、増築など施設整備が遅れた。時代に即応することはもとより、内外部の環境を睨み、マスタープランを常に見直しながら、学生の要望も反映させる柔軟性がなければならないと考えている。一方、財務体質の強化も必要であり、全学一体とならなければ競争力は増強されない。	長期的な財務計画(意思決定機関による承認)に裏付けられた、計画的な大型リニュアルの実施。
	4	4	地方に存在する大学本部とは離れたキャンパスであるため	地元のまちづくりとも連携したキャンパス計画
	4	4	工業大学・幼児教育短大・リハビリ専門学校・付属幼稚園・付属中高校と、教育内容が全く異なる学校の集合体であるが、教育学園全体のキャンパス計画が無い状態で今日に至る。	施設の大半が旧耐震建物であり耐震補強または建て替えが必要である。限られた敷地面積・限られた予算を前提に計画的に整備を進めることが肝要で、そのためにも、先ずは経営陣を含めた将来計画委員会等の立ち上げが必要。
	4	5	コンペにより全体計画され建物等もデザインに優れたものが多いから	内部の仕上げと教育の大きさのフレキシブルさに欠ける
	5	3	・機能的でない ・周囲の風景を眺望できる開放的なデザインであるが、冬季の気候に適していない ・増築を重ねていて、個々の建物のデザインがコントロールされていない	・教育研究活動に適した教室の配置 ・学習意欲を鼓舞する空間のデザイン ・学生の活動をサポートする場のデザイン ・周囲の環境との調和
	5	3	地方の私立大学として、世界的な大学間競争には現在のところ巻き込まれていない。しかしながら、国内においては、首都圏に流出しがちな高校生に対して、地元できちんと学修可能な大学として、内容(カリキュラム・実績)とともにキャンパスそのものの魅力を向上させることは重要と、ようやく認識されつ	本学では校舎の建て替え時期が迫ってきており(2014年に大学設立50周年)、まず資金面を考慮した中期的なキャンパス整備計画が必要と思われる。その際には単なる建て替えではなく、キャンパス全体としての魅力の向上に資するような個々の施設整備とキャンパス全体構想を配慮す
	5	3	敷地の広さと周辺環境の違い。	それぞれの地域と共存・共生する広がりを持ったタウンキャンパスを目指すべきと考えま
	5	4	キャンパスが大宮と豊洲に別れている。 マスタープランがない 経済力が弱い 研究設備・人材・経済力では勝負できない	マスタープランの作成と財政健全化 人材の質の向上
	5	4	開校以来，場当たり的に施設整備を行ってきたことにより，教育・研究環境としてのゾーニングや，学科間の調整，機能の充実等が計られていない。	キャンパス・マスタープランの策定が重要。 長期的な視野に立ち，アカデミックプランから，学部トップが代わっても変わることがない方向性と年次計画を組み立てる。
	5	4	・キャンパスマスタープランを創らないで、行き当たりばったりに建設計画を進めた結果、大学キャンパスが獲得すべき創造的な交流空間としての外部空間が喪失してしまった。 ・子ども園、小中高校、大学までがキャンパスを共有しているのに、そのメリットを活かし切れていない。それぞれの学校が独立してお互いの連携が感じられない。 ・地域に対して開かれていない。	・キャンパスマスタープランの作製が重要である。その時、子ども園から小中高校、大学がどのように連携しながら地域に貢献するかを深く議論することが重要である。 ・上記マスタープランによるキャンパスの「創造性」が、どれだけ広報的に有効かも検討　すべきである。この広報は、新入生に向けてだけでなく、卒業生や地域住民から海外に向けても発信すべきである。
	5	4	—	個々の施設計画とは別にランドスケープ専門家も入れたアドバイザーグループを置き、施設部門(事務)と連携をとる
	5	4	キャンパスの周辺地域を含む立地条件，敷地面積のほかに，一部の老朽化した校舎が将来的な整備計画もなく存在するため。	少なくとも，老朽化した校舎の整備計画をたて，最寄りの駅から大学までの街路・周辺環境も含めた大学キャンパスらしい整備を働きかけていくことが必要と考えられる。
	5	5	デザインよりもとりあえず箱を作る事が過去に優先されていて，最近建てられてものはデザインを意識しているが，古いものは単なる四角い箱になっている。 キャンパス全体の計画を考えて実行するという意識が特に事務方に無いため，その場しのぎのような建設計画になってしまう。	長いスパンで計画を進める実行力と財政が必要だが現在の地方私学の状況では難しいと思わざるを得ない。
	5	5	学生の学習環境を教室や実習優先でのプランニングであり、学生達の休息の場や様々な活動をも重視した空間や環境的配慮に不足があるため	左記の点から、学生の就学環境に対する意見などを求め、より就学意欲や安らぎを提供できる空間とは、どのようなニーズであるかを聞き取る
			視認しやすい　明るい	学生の居場所を確保
	—	—	—	—
	—	—	—	—

⑤施設・キャンパスデザイン整備に関する資金調達の方法を教えていただけますか□推定でもかまいません。不明であれば空欄で結構です）□
自己調達（　　）% 寄附（　　）% 国からの補助金（　　）%

国公立	自己調達	寄付	国からの補助	備考
国立大学	33	0	67	自己調達30億、国からの補助金61億 ＊有形固定資産の取得額　平成24年度91億　施設整備補助金総額61億
	15	5	80	
	—	—	—	
	25	2	73	
	1未満	2	97	施設部で扱う予算を年間約100億円として、2008~2013年度の5年間のうち、 外部資金等獲得：　約1000万円／5年間（受託による工事費補助・府の補助金獲得など） その他自己調達：　約2億円／5年間（キャンパス車両入構料のうち工事分） （上2点で、自己調達は5年間で2億円少々） 寄付金：　約10億円／5年間
	7	53	40	
	88	0	12	
国立大学	0	0	100	
	15	5	80	年度によって変動があるため、上記数値は平均値を推定した。
	35	0	65	
	—	—	—	
	—	—	○	
	—	—	—	不明
	○	0	○	自己調達は病院収入によるもの
	20	0	80	
	—	—	—	
公立大学	0	0	100	おそらく市から
	—	—	—	
	—	—	—	
	0	0	0	基本的に土地・建物は市の財産であるため、設備は全て市による。大学は利用させてもらうのみ。
	—	—	—	設置者である北九州市が、施設整備についての資金を拠出しています
	—	—	—	
私立大学	50	0	50	
	—	—	—	
	100	0	0	補助金はその時々で変わってしまうので，不明。
	—	—	—	
	—	—	—	
	100	0	0～10	
	100	0	0～10	
	80	10	10	
	90	0	10	
	—	—	—	
	—	—	—	
	100	0	0	
	—	—	—	募集停止のため回答不可
	95	5	0	地方キャンパスとしては不明。大学としての値
	100	0	0	
	95～100	0	0～5	
	95～100	0	0～5	
	100	0	0	
	—	—	—	
	—	—	—	ケースバイケースであるが、原則として自己調達
	100	0	0	他はあっても乏しい
	10	80	10	
	—	—	—	
	—	—	—	よくわかりません
	—	—	—	
	88	2	10	
	100	0	0	
	—	—	—	
	—	—	—	
	—	—	—	不明

⑥大学施設部はありますか　ある　ない□⑥ー１（あるとお答えの方）どのような構成ですか□
建築（　　）人　設備（　　）人　通園（　　）人　土木（　　）人　その他（　　）人
⑦大学施設部と土木系学科・建築系学科との協力関係はありますか　ある　ない

国公立	大学施設部はあるか？							大学施設部と土木・建築系学科との協力関係		
	ある					ない	備考欄	ある	ない	備考欄
	建築	設備	通園	土木	その他					
国立大学	7	16	0	0	9		施設部のみ職員32人＋嘱託等22人 施設部以外職員16人＋嘱託等12人 （建築6人設備10人）	○		総長室の中に、施設部が事務所掌する施設環境計画室があるが、その室員の3名は、建築系・土木系教員である。 施設環境計画室には、3つのタスクフォースがあるが、4名の建築系・土木系教員が関わってい
	19	32	0	0	19				○	
	44	47	0	1	9			○		
	13	15	0	0	25			○		
	21	13	0	0	20		他に工学研究科と医学部付属病院には営繕担当が若干名ずついる	○		一応あるが、CD室と建築工学科との連携はあまりできていない学科からの省エネコンサルティング、ならびに学科への設計演習等提供、見学会提供、インターンシップ受入れ、などです。
	23	30	0	1	8			○		新キャンパス計画推進室に人間環境(建築学)出身2名、土木出身1名の教員を配置し、さらにワーキンググループ等に委員として参加するなど協力体制をつくっている。
国立大学	4	4	0	0	2			○		
	13	13	0	0	5			○		
	6	7	0	0	3			○		
	—	—	—	—	—		あるが不明	○		
	—	—	—	—	—		ある	○		
	4	8	0	0	0			○		
	—	—	—	—	—		ある	○		
公立大学	—	—	—	—	—	○			○	
	0	0	0	0	2				○	
	—	—	—	—	—	○	施設管理の職員は2名程度		○	
	—	—	—	—	—		施設部はあるが人数把握ができない		○	
	2	6	0	0	2				○	
	—	—	—	—	—	○				該当外
	—	—	—	—	—	○	施設部にセクションはあるが、担当として建築2人設備1人が施設の維持管理及び修繕並びに新築・改修工事等の業務に従事している	○		
	—	—	—	—	—	○		—	—	未回答
私立大学	0	0	0	0	5				○	
	0	0	0	0	6		施設管財課		○	
	0	0	0	0	6		施設管財課		○	
	1	1	0	0	0		学部レベルでは他の業務と兼任で保守・営繕が主となる（管財課）		○	
	1	0	0	0	1			○		個々の整備室科では一部あった
							あるが無回答		○	
	5	2	0	0	0		施設管財部施設課	○		
	5	2	0	0	0		施設管財部施設課	○		
	0	3	0	1	0				○	
	—	—	—	—	—	○			○	
	—	—	—	—	—	○	管財課で対応している		○	
	3	2	1	1	0				○	
	1	0	0	0	6				○	
	—	—	—	—	—		学生募集停止のため回答を遠慮			
	—	—	—	—	—	—	東海大学は全国に複数キャンパスあり 施設部(ファシリティ課)は最も大きなキャンパスである。湘南キャンパスにおかれ、全キャンパスで統括している	○		
	2	1	0	0	4				○	
	0	3	0	0	2			○		協力関係ではあるが、常にではない
	0	3	0	0	2			○		協力関係ではあるが、常にではない
	2	2	0	0	1			○		
	1	1	1	0	2		施設管財課が担当 職員の部課移動があり専属の専門職員はいない。担当で言えば左記の通り。このほかに嘱託職員がいるほか、業務委託が行われている。	○		キャンパス計画室は建築学科関係者で構成されるが建築学科とは基本分離している
	4	2	0	0	10			○		
	—	—	—	—	—	○		○		別設⑨にあたるキャンパス整備推進課があり、こちらとの協力関係はある
	—	—	—	—	—	○			○	
	—	—	—	—	—	○			○	
	1	0	0	0	14			○		
	—	—	—	—	—	○			○	
	3	4	1	0	16		担当者数であり、専門職採用ではない	○		
	—	—	—	—	—	○			○	土木系学科は設けていない
	—	—	—	—	—	○			○	
	0	0	1	0	6				○	
	—	—	—	—	—	○	庶務課が簡単な営繕を行う程度		○	施設部がないため回答が難しい

⑧マスターアーキテクト、キャンパスデザイン・ディレクター等はいますか　いる　いない

	マスターアーキテクト・キャンパスデザイン・ディレクター等はいますか		
	いる	いない	備考欄
国公立大学	6	15	・ブロックプラン等の主要部における計画で、〇〇大学名誉教授を委員長とするマスター・アーキテクト委員会(総長の諮問機関)による監修を行っている。 ・常勤ではいないが、諸施設のデザインアドバイスを行ったり、直接かかわったりしている。 ・1990年のキャンパス移行したときにはいた。 ・CD室が存在する。但し権限は限られている。
私立大学	6	23	・呼称は異なるが同様な役割の人間はいる。 ・そのような明示はされていないが、実質、キャンパス整備室長が果たす役割は大きい。 ・キャンパス整備室における教授1名がマスタープランアーキテクトとして活躍中。 ・実態としては、施設部の建築職1名が、キャンパスデザイン・ディレクター的な役割を果たしているが、これが適切な結果となっているかどうかは疑問である。 ・今はいない。

⑨大学キャンパス整備室はありますか　ある　ない□□□□
⑨−1（あるとお答えの方）常勤・非常勤は何人ですか　常勤（　　）人　非常勤（　　）人
⑨−2 ⑨−1の人数のうち、建築・造園・土木技術担当者数は何人ですか　建築（　　）人　造 園（　　）人　土木（　　）人　その他（　　）人
⑨−3 大学の教員としてキャンパス整備室に関わっている方（教授、准教授、講師）は何人ですか
教授（　　）人　准教授（　　）人　講師（　　）人　非常勤講師等（　　）人

国立大学	大学キャンパス整備室はありますか											
	常勤	非常勤	当者数の人数				教員としてキャンパス整備室にかかわっている人数				ない	備考欄
			建築	造園	土木	その他	教授	准教授	講師	非常勤講師等		
国立大学	4	—	2	—	—	2	2	1	0	0		ブルキャンパス推進本部(以下SC本部)が存在する。SC本部は、総長直轄の組織であり、大学のサスティナビリティを高めるための諸活動の企画・計画、実行、支援を
	7	1	6	—	—	—	2	—	—	—		常勤4人(兼務)非常勤1人は工学部キャンパス震災復興限定 教授に関しても同様
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		学内にキャンパス整備室はありませんが、事業の立案段階から実施段階までの各段階において事業計画の策定・助言を行う組織として、学内に「キャンパス計画室」を設置しているので、参考までに構成
	6	1	4	—	3	—	1	3	—	—		
	2	0	1	0	0	1	2	1	2	—		施設部長が室員を兼任しており、さらに施設マネジメント委員長が室長。
	28	1	11	0	3	13	6	5	—	3		
国立大学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	2	10	7	1	0	2	6	1	—	5		
	5	4	9	—	—	—	3	1	1	4		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	キャンパス整備WGはあり
	—	—	—	—	—	—	2	—	—	—	○	
公立大学	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	委員会レベルで、府が作成した計画をチェックするのみ。府は計画を他大学へ発
	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
私立大学	12	—	—	—	—	—	5	5	1	1		大学施設整備検討ワーキング
	12	—	—	—	—	—	5	5	1	1		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	1	—	—	—	—	1	3	—	—	—		
	—	—	—	—	—	—	9	—	—	8	○	キャンパス整備検討委員会という組織が置かれている
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		募集停止により回答辞退
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	3	—	2	—	—	—	—	—	—	—		
	—	14	3	—	1	10	6	1	—	—		
	—	14	3	—	1	10	6	1	—	—		
	24	—	4	—	1	—	12	—	—	—		キャンパス整備委員会を設置している。以下上記についての回答
	2	3	5	—	—	—	1	—	—	2		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	10	—	2	—	1	2	4	1	—	—		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	1	5	4	1	—	—	5〜7	—	—	—		
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	本学部は九州の一学部であり、キャンパス計画については、大阪本部で対応している
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	
	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	○	

平成２５年１２月

大学キャンパスに関するアンケート調査のお願い

日本学術会議　土木工学・建築学委員会
大学等研究・キャンパス整備に関する検討分科会
委員長　東京工業大学名誉教授　仙田　満

わが国の大学等のキャンパス整備について日本学術会議土木工学・建築学委員会では「大学等研究・キャンパス整備に関する検討分科会」を設け、政府に対し提言をしたいと考えております。その資料として、貴大学のキャンパスデザイン整備について、貴職より個人的な考え方でも結構ですから、以下の質問に答えていただきますと誠に幸いです。(12月末日までにお返事をお願いいたします)

①貴校のキャンパスデザインは世界的に競争力があると思いますか。
（該当する位置の番号に○印をつけてください）
競争力がある　　１　２　３　４　５　　競争力がない

②貴校のキャンパスデザインは国内では競争力があると思いますか。
（該当する位置の番号に○印をつけてください）
競争力がある　　１　２　３　４　５　　競争力がない

③その競争力はどのようなことが原因とお考えですか

④より良いキャンパスにするためにはどうすべきとお考えですか

⑤施設・キャンパスデザイン整備に関する資金調達の方法を教えていただけますか
（推定でもかまいません。不明であれば空欄で結構です）
自己調達　（　　）％　寄附　（　　）％　国からの補助金　（　　）％

⑥大学施設部はありますか　　ある　　ない

⑥－１　（あるとお答えの方）どのような構成ですか

建築　（　　）人　　設備　（　　）人　　造園　（　　）人

土木　（　　）人　　その他（　　）人

⑦大学施設部と土木系学科・建築系学科との協力関係はありますか　　ある　　ない

⑧マスターアーキテクト、キャンパスデザイン・ディレクター等はいますか　　いる　　いない

⑨大学キャンパス整備室はありますか　　ある　　ない

⑨－１　（あるとお答えの方）常勤・非常勤は何人ですか

常勤（　　）人　　非常勤（　　）人

⑨－２　⑨－１の人数のうち、建築・造園・土木技術担当者数は何人ですか

建築　（　　）人　　造　園　（　　）人

土木　（　　）人　　その他　（　　）人

⑨―３　大学の教員としてキャンパス整備室に関わっている方（教授、准教授、講師）は何人ですか

教授（　　）人　　准教授（　　）人

講師（　　）人　　非常勤講師等（　　）人

大変お忙しいところ、お答えいただき、誠にありがとうございます。

大学名

所　属

連絡先

匿名を希望する

1. 回答大学一覧

国公立大学21校
北海道大学　工学部
室蘭工業大学大学院
東北大学
秋田県立大学
宮城大学
前橋工科大学
東京大学
首都大学東京
千葉大学　建築学科
横浜国立大学
名古屋大学
名古屋市立大学
豊橋技術科学大学
京都府立大学大学院
大阪大学
九州大学
北九州市立大学
大分大学
熊本大学
熊本県立大学
鹿児島大学大学院

私立大学31校
東北芸術工科大学
東北工業大学　建築学科
東北工業大学　都市マネジメント学科
日本大学　工学部建築学科
足利工業大学
慶應義塾大学
芝浦工業大学　建築学科
芝浦工業大学　土木工学科
日本大学　芸術学部
日本大学　生産工学部
東京理科大学工学部
文化学園大学
関東学院大学
東海大学　国際文化部
共立女子大学　家政学部
東京都市大　建築学科
東京都市大　都市工学科
日本大学　理工学部
武蔵野美術大学
明治大学
神奈川大学工学部
愛知産業大学
椙山女学園大学
名城大学　理工学
大同大学
関西大学
大阪芸術大学　芸術学部
近畿大学産業理工学部
近畿大学
第一工業大学

提言等の提出チェックシート

このチェックシートは、日本学術会議において意思の表出（提言・報告・回答、以下「提言等」という）の査読を円滑に行い、提言等（案）の作成者、査読者、事務局等の労力を最終的に軽減するためのものです。

提言等（案）の作成者は提出の際に以下の項目をチェックし、提言等（案）に添えて査読時に提出してください。

	項目	チェック
1. 表題	表題と内容は一致している。	(1.)はい 2. いいえ
2. 論理展開 1	どのような現状があり、何が問題であるかが十分に記述されている。	(1.)はい 2. いいえ
3. 論理展開 2	特に提言については、政策等への実現に向けて、具体的な行政等の担当部局を想定している（例：文部科学省研究振興局等）。	1.部局名： (2.)特に無い
4. 読みやすさ 1	本文は 20 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。※図表を含む	(1.)はい 2. いいえ
5. 読みやすさ 2	専門家でなくとも、十分理解できる内容であり、文章としてよく練られている。	(1.)はい 2. いいえ
6. 要旨	要旨は、要旨のみでも独立した文章として読めるものであり 2 ページ（A4、フォント 12P、40 字×38 行）以内である。	(1.)はい 2. いいえ
7. エビデンス	記述・主張を裏付けるデータ、出典、参考文献をすべて掲載している。	(1.)はい 2. いいえ
8. 適切な引用	いわゆる「コピペ」（出典を示さないで引用を行うこと）や、内容をゆがめた引用等は行わず、適切な引用を行っている。	(1.)はい 2. いいえ
9. 既出の提言等との関係	日本学術会議の既出の関連提言等を踏まえ、議論を展開している。	(1.)はい 2. いいえ
10. 利益誘導	利益誘導と誤解されることのない内容である。	(1.)はい 2. いいえ
11. 委員会等の趣旨整合	委員会・分科会の設置趣旨と整合している。	(1.)はい 2. いいえ

※チェック欄で「いいえ」を記入した場合、その理由があればお書きください

記入者（委員会等名・氏名）：

知的創造と活動を喚起する環境としての大学等キャンパスに関する検討分科会　　仙田　満

・

参考：　日本学術会議会長メッセージ、「提言等の円滑な審議のために」(2014 年 5 月 30 日)。
http://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/140530.pdf